

# 兵庫消防

発行所  
公益財団法人兵庫県消防協会  
神戸市中央区下山手通6丁目3番28号  
編集発行人 安 満 真 哉

二〇二六年  
全国統一防火標語  
火の確認  
いい日を支える  
いい習慣

## 県立広域防災センター！ 県消防防災航空隊 派遣期間終了と着任

(公財) 兵庫県消防協会



県防災関係幹部と派遣期間終了者

令和八年三月三十一日(火) 県災害対策センター会議室において、県内各消防本部から派遣された職員の派遣期間終了の辞令交付式が執り行われました。  
派遣期間終了の辞令と併せて、防災監より派遣期間中の功績に対する感謝状が贈呈され、また県立広域防災センターへ派遣されていた職員に対し、県消防協会長からの、消防団員の教育訓練にご尽力いただいたことに対する感謝状が贈呈されました。  
また、令和八年四月一日(水)、同じく県災害対策センター会議室において、県内各消防本部から派遣された職員の着任辞令交付式が執り行われました。  
派遣期間を終了された皆様には、その豊富な知識と経験を活かし、県消防防災の強化に尽くしてくださいましたことに心からの感謝とお礼を申

し上げ、今後のご活躍・ご健勝を祈念しております。  
新しく着任された皆様、県民の安全・安心のために、そして消防防災力強化のため、どうぞよろしくお願いたします。  
この度の派遣期間終了と着任は次のとおりです。

### ◎派遣期間終了

#### 【消防防災航空隊】

隊長 吉岡 大地  
神戸市消防局 (消防監)  
主幹 松末 人  
神戸市消防局 (消防司令)

主任 福田 大輔  
南但消防本部 (消防司令補)

〃 岩倉 徹  
神戸市消防局 (消防司令補)

〃 羽田 匡宏  
三木市消防本部 (消防司令補)

〃 山中龍一郎  
三田市消防本部 (消防司令補)

副主任 橋本 邦彦  
神戸市消防局 (消防士長)

#### 【消防学校】

救急救命士養成課程  
教務課長 片山 朗  
神戸市消防局 (消防司令)

主任 西村 篤人  
豊岡市消防本部 (消防司令補)

主任 古市 泰士  
神戸市消防局 (消防司令)

主任 京本 俊彦  
姫路市消防局 (消防司令)

主任 河井 英樹  
神戸市消防局 (消防司令)

主任 森本 崇志  
三田市消防本部 (消防司令補)

### ◎着任

#### 【消防防災航空隊】

隊長 岡田 敏幸  
神戸市消防局 (消防監)  
主幹 横山 貴幸  
神戸市消防局 (消防司令)

主任 古澤 大樹  
神戸市消防局 (消防司令補)

〃 春名 晃輔  
西はりま消防本部 (消防司令補)

〃 三好 勇人  
淡路広域消防事務組合 (消防司令補)

副主任 魚橋 良輔  
高砂市消防本部 (消防士長)

#### 【消防学校】

救急救命士養成課程  
教務課長 西馬 武彦  
神戸市消防局 (消防司令)

主任 森本 崇志  
三田市消防本部 (消防司令補)

主任 河井 英樹  
神戸市消防局 (消防司令)

主任 森本 崇志  
三田市消防本部 (消防司令補)

主任 河井 英樹  
神戸市消防局 (消防司令)

## 兵庫県防災関係幹部紹介

(令和八年四月一日)

防 災 監	池田 頼昭
危 機 管 理 部 長	唐津 肇
危 機 管 理 部 次 長 (新任)	溝垣 敏宏
危 機 管 理 部 次 長	藤本 剛司
総 務 課 長	正垣あおい
防 災 支 援 課 長 (新任)	中嶋 嘉彦
広 域 防 災 官	多鹿 雅彦
災 害 対 策 課 長	陰山 暁介
訓 練 ・ 調 整 官 (新任)	陣内 信行
消 防 保 安 課 長 (新任)	堀池 美江
広 域 防 災 センター長兼消防学校校長	高崎 和則
同センター総務部長兼管理課長	中井 昌彦
消 防 学 校 副 校 長	
消 防 学 校 校 長	

消防教育専門員	菅崎 晃
主 査	林 秀樹
〃	姫路市消防局 (消防司令)
〃	永登 大志
〃	伊丹市消防局 (消防司令)
主任	久保知重記
〃	宝塚市消防本部 (消防司令補)
〃	蘆田 淳
〃	南但消防本部 (消防士長)
〃	嶋 恭平
〃	豊岡市消防本部 (消防副士長)
〃	市町職場研修生 羽根岡佑衣
〃	姫路市消防局 (消防士長)



着任辞令交付式

# 令和八年度 第九一期 初任教育入校式挙行!!

## 一六四名が消防士として訓練の第一歩を踏み出す!



第九一期初任教育入校式

令和八年四月六日(月)、県立広域防災センター消防学校において第九一期初任教育入校式が挙行されました。入校式では、各消防長及び関係者の方々の参列を仰ぎ、決意も新たに消防士としての第一歩を踏み出すこととなりました。消防士として採用された新規職員は、六ヶ月におよぶ全寮制のもと、消防士として必要な体力・気力・知識・技術を習得するため、厳しい訓練



初任教育生 宣誓



消防学校長式辞

を受けなければなりません。入校式後には早速、体力測定が実施され、教育生達は精一杯取り組みました。これから六ヶ月間の厳しい訓練で、頼もしい教官方に導いていただきながら、同期の



屋外 集合写真

皆さんと共に乗り越え、知識・技術を習得し、逞しい体力と精神力を兼ね備えた「消防士」として九月の卒業式を迎えていただきたいと思えます。

### 兵庫県消防協会事務局員の異動一覧

旧		新	
事務局長(課長)	中嶋 嘉彦	事務局長(課長)	堀池 美江
幹事(主幹)	梶本 智和	幹事(主幹)	森川 徹
書記(主査)	石原 武史	書記(主任)	内藤慎一郎
書記(主任)	富田 裕太	書記(副主任)	澁谷 圭吾
書記(主事)	中本 剛史	書記(主事)	横山 大悟
書記(主事)	宮崎 詩織	書記(主事)	津田 篤大

( ) 内は県消防保安課内の職名

### 第三二回全国女性消防団員活性化大会

#### 兵庫県で開催決定

令和九年に開催される第三二回全国女性消防団員活性化大会が兵庫県で行われることが決まり、大会に向けた準備が本格的にスタートしました。同大会は、女性消防団員の活動促進や地域防災力の向上を目的に毎年開かれており、令和七年度の第三〇回大会は長崎県長崎市で開催、令和八年度の第三一回大会は北海道札幌市で開催される予定です。兵庫県での開催は初めてであり、全国から多くの関係者が集う大規模な催しとなります。

大会の企画・運営を担う実行委員会は令和八年二月に県内の消防関係者によって結成され、三月にはその下部組織として、各地区の女性消防団員を中心とした準備委員会が立ち上がりました。現場で活動する団員の声を直接取り入れ、地域の実情に即したプログラムづくりを進めていきます。

女性消防団員は、地域の見守り活動や防火啓発、災害時の支援など、多岐にわたる役割を担っています。全国でも



準備委員会



# 『地域に根差した消防団活動』

## 市川町消防団

### 自然豊かな地域

市川町は、兵庫県ほぼ中央に位置するハート型をしたまちで人口約一万人の町です。町の中央部を清流市川が流れ、その昔、船渡しに十石舟が往來した穏やかな川面に、田園と山並みが映ります。「羅生門」「七人の侍」など、日本映画の黄金期を築くとともに、世界的にも認められているシナリオライターの名作がある故橋本忍氏の生まれ故郷でもあります。

### 消防団の構成

昭和三〇年七月二五日、川辺村、瀬加村、甘地村、鶴居村の四村の合併によって市川町が誕生し、それに伴い旧四村の消防団が統合され、市川町消防団が発足しました。平成一九年四月一日に神崎郡三町の神河町、市川町、福崎町

は姫路市に消防事務を委託し、市川町は現在、姫路市中播磨消防署の管轄となっています。それに伴い、市川町消防団も現在は姫路市中播磨消防署と連携して消防活動や訓練に取り組んでいます。構成は四地区二六分団で、仲井敬団長を率いる基本団員三九五名及び二〇名の機能別の団員が消防団活動を行っております。基本団員の平均年齢は三四・八六歳と県下トップクラスの若者の活気があふれる消防団です。

市川町消防団の活動については、火災出動は当然のことながら、出初式、幹部・新入団員教養訓練、町操法大会、地元住民との合同訓練、水防訓練、春・秋の火災予防啓発運動などがあります。団の主な装備として、消防ポンプ自動車一台、小型動力ポンプ積載車二四台、指令車一台を有

し、緊急時に即時対応できるような機能の整備と強化を行っており、町民が安心して暮らせるまちづくりに貢献しています。

### 新しい取り組み

市川町消防団では、令和七年度に新しい取り組みとして、地域の住民や子どもたちを巻き込んだイベント「Ichikawa防災フェスティバル」を市川町文化センターで開催しました。より消防団を身近に感じてもらい、入団促進に繋げるとともに地域との連携強化し、市川町全体の防災意識を高めるために実施しました。イベントでは、消防団員による操法披露やポンプ車の乗車体験、消防職員による救助・放水パフォーマンスなどが行われました。ほかにも、楽しく学べる防災の体験プー

スやキッチンカーも出店し約一、二〇〇人が来場されました。

また、消防団をより身近に感じてもらう取り組みの一つとして、PR動画の作成も行いました。動画には、年間の活動行事や訓練の様子を収録し二分四五秒にまとめています。消防団員は仕事と両立しながら地域の安全を守っていることを強調し、町のヒーローであることを伝えていきます。

この動画は、Ichikawa防災フェスティバルや二十歳のつどいなどで上映し、役場窓口のデジタルサイネージでも上映しています。また町の公式YouTubeでも公開しており、今後の市川町消防団PRにより一層役立てていきます。



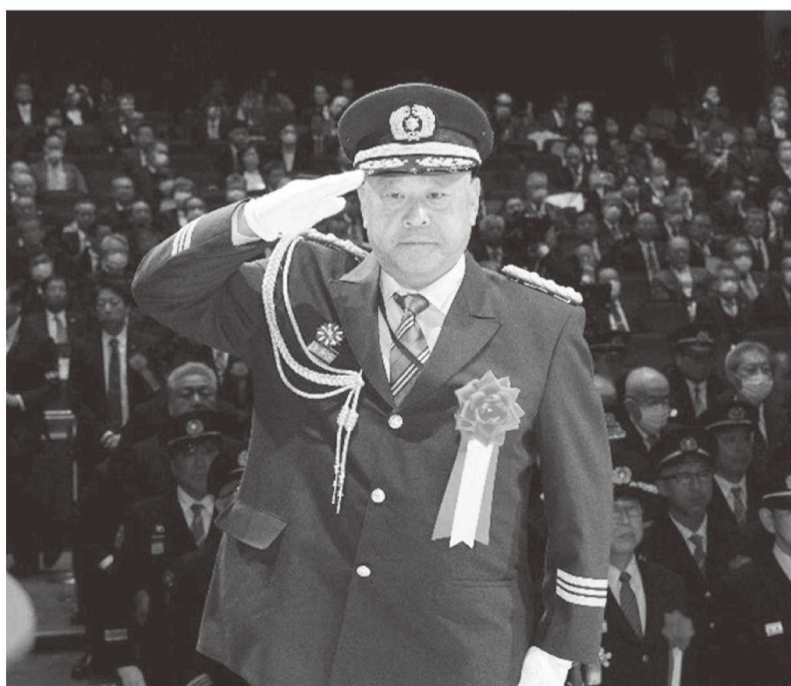
募集チラシ

二次元コード【市川町公式YouTube】  
[https://youtu.be/dkvdw6-5A4k?si=0Gqm5\\_q8tyMJ3FC](https://youtu.be/dkvdw6-5A4k?si=0Gqm5_q8tyMJ3FC)



PR動画の画像

## 第七八回 日本消防協会定例表彰式開催 安満会長は特別功労賞受賞



特別功労賞を受賞した安満会長

令和八年三月六日、第七八回日本消防協会定例表彰式が東京都港区のニッショーホールで執り行われ、全国各地から消防関係者や自治体代表者が参集しました。表彰式には、高橋克法総務副大臣、大沢博消防庁長官、市川博三全国消防長会会長をはじめとする来賓のほか、約四〇〇名が出席しました。会場には厳かな空気が漂い、地域の安全を支えてきた団体、個人が次々と壇上に呼ばれ、温かな拍手の中で表彰を受けました。

会長も務める安満真哉会長が、消防団活動の充実や地域防災力の向上に尽力してきた姿勢が高く評価され特別功労賞を受賞しました。全ての表彰授与ののち、高橋克法総務副大臣が来賓祝辞を述べ、続いて受賞者代表として安満会長が謝辞を述べました。式典は、日本消防協会の高橋昌久副会長による万歳三唱、日本消防協会の河合有二副会長による閉式の辞で締めくくられました。災害が多発する近年、地域防災の重要性は一層高まっています。今回の表彰式は、地域の安全を守るために日々活動する人々の努力を改めて広く称える場となりました。受賞者の取り組みは、全国の防災体制を支える大きな力となり、今後の地域づくりにも確かな励みを与えるものとなりそうです。

# 令和七年度消防功労者 消防庁長官表彰式



受章者集合写真

令和八年三月四日(水)、東京都の合同庁舎第二号館(総務省)地下二階講堂にて令和七年度消防功労者消防庁長官表彰式が挙行されました。表彰は、功労章・永年勤続功労章・表彰旗・竿頭綬・事務従事職員の五部門にわたり、兵庫県内からは計一四二名・三機関が受章されました。なお、内訳は次のとおりです。

### 【消防功労者消防庁長官表彰】

- 功労章 九名
- 永年勤続功労章 一三二名
- 表彰旗 一機関
- 竿頭綬 二機関
- 事務従事職員表彰 一名

## ひょうご安全の日のつどい 開催



一・一七のつどい(追悼行事)

阪神・淡路大震災から三一年を迎えた令和八年一月十七日、震災の経験と教訓を地域や世代を超えて継承するため、「震災を風化させない」「忘れない」「伝える」「活かす」「備える」「繋ぐ」をテーマに「ひょうご安全の日

のつどい」が開催されました。当日は、一・一七のつどい(追悼行事)、一・一七ひょうごメモリアルウォーク二〇二六、交流ひろば・防災訓練等が実施されました。一・一七のつどい(追悼行事)では、阪神・淡路大震災

で犠牲となられた方々へ哀悼の誠を捧げるとともに、安全・安心な社会づくりに向け、て歩む決意が国内外や次世代に発信されました。交流ひろばでは、NPOやボランティアグループ、防災関係機関等による活動展示、



交流ひろば

## ひょうご防災減災推進条例が改正

### 行政や消防団の取組を明確化

令和七年一二月に、ひょうご防災減災推進条例が改正されました。平成一七年三月に制定された条例で、今回が三回目の改正となります。第一条で、「一月一七日をひょうご安全の日と定める」とし、阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承するとともに、安全で

安心な社会づくりを進める目的を持っていきます。この度の改正は、震災三〇年を機に、兵庫県の防災減災の取組の更なる推進を図るためのもので、「消防団は、地域防災の中核」であるとし、たうえて、県は「消防団の地域における防災減災の取組に

関する県民の理解及び参画を促進することとし、市町は「法律に規定する消防団員の処遇の改善、消防団の装備の改善等に取り組み」ことが明確化されました。消防団は、「地域に密着し、災害が発生した場合に地域で即時に対応するとともに、自主防災組織

等の教育訓練その他の地域における防災体制の強化に取り組む」ことが求められます。



若者グループによる防災活動紹介や学校(高等学校、大学等)の防災教育の実践紹介、関係団体による防災体験学習コーナー、防災用品・備蓄物資(非常用食糧等)の展示等が行われました。また、神戸市水上消防団港島分団大学の活動の様子



神戸市水上消防団港島分団大学の活動の様子



### 「消防署との緊密な連携による 「安全安心なまちづくり」を目指して」

#### 西脇市消防団

##### 西脇市消防団の 概要と基本理念

兵庫県ほぼ中央、東経一三五度と北緯三五度が交差する「日本のへそ」に位置する西脇市は、面積一三二・四四平方キロメートルを有する自然豊かな都市です。この地の安全を支える西脇市消防団は、一団七分団、総勢八二八名の団員で構成されています。私たちは「自らの地域は自らが守る」という郷土愛護の精神に基づき、日々活動に励んでいます。組織としての連携を強化するため、新部長、新入団員及び機関員を対象とした全体訓練を毎年実施しており、分団の垣根を超えた迅速な災害対応力の向上に努めています。

また、全国大会が実施される年の操法大会の出場は各都府県任意制としており、出場希望が無ければ、西脇市としての大会は実施されません。大会への出場がなければ水出し訓練の回数は減るため、独自の活動訓練や分団演習を実施することで、災害活動技術の向上を図っています。

西脇消防署及び西脇北出張所とは年四回の連携訓練を実施し、災害時の即応体制を磨いています。訓練後には毎回消防署員と団員による意見交換会を開催しており、形式にとられない率直な対話を通



火災事案検討会の様子

##### 消防実践操法大会等への 取り組み

当市では、全国消防操法大会が開催されない年に「西脇市消防団消防実践操法大会」を開催しており、昨年度は新



消防実践操法大会

### 「縮充のまちづくりと共に — 佐用町消防団の挑戦 —」

#### 佐用町消防団

兵庫県の西部、西播磨地域に位置する佐用町。夏には約五〇万本のひまわりが一面に咲き誇り、その鮮やかな黄色は訪れる人々の心を明るく照らします。また、地元の食文化である「佐用ホルモンうどん」は、鉄板で焼かれた甘辛いタレと香ばしいホルモンの風味が食欲をそそる、私たちの誇る味です。この豊かな自然と温かな食、そして町民同士の強い絆に支えられたこの町で、私たち佐用町消防団は、町民の生命と財産を守るため、日夜活動を続けています。

今、当団は大きな変革期を迎えています。全国的な潮流と同様、人口減少や少子高齢化の波は、消防団運営にも大きな影響を及ぼしています。近年、当団では年度によって変動はあるものの、毎年二〇人から四〇人規模の団員減が

続いており、地域防災力の維持は年々厳しい状況に直面しています。こうした現実の中で、私たちが進めているのが「縮充のまちづくり」という視点での組織再編です。単に人員の減少を嘆くのではなく、活動の質を磨き上げ、より機能的で持続可能な消防団へと深化させる。この前向きな「縮充」の姿勢こそが、これからの地域防災の鍵であると考えています。

この改革の契機となったのが、令和四年に実施した団員へのアンケート調査でした。そこでは、長時間の屋外での起立が求められる出初式や、操法大会への参加が団員の大きな負担となっている実態が浮き彫りとなりました。この結果を真摯に受け止め、令和六年度より「団員の負担軽減」を最優先方針として打ち

出しました。具体的には、出初式の屋内ホール開催への移行や、町操法大会の廃止、そして西播磨地区大会への参加を希望分団による手上げ制へと変更しました。

一方で、負担軽減をただの「活動休止」にすることなく、現場で真に求められる訓練の充実に注力しています。具体的に、ポンプの基本操作訓練をはじめ、長距離送水を想定した中継放水訓練、土のう工法を行う水防講習会、さらには救命講習会などを実施し、より実践的で「使える技術」の習得に励んでいます。

組織の若返りも進んでいます。長年団を支えてきた幹部層から、副団長をはじめとする次代を担う若い世代へと、少しずつ着実にバトンが引き継がれています。伝統を守りつつも新しい風を取り入れる柔軟性が、現在の当団の強み

です。また、組織の多様化も重要な課題です。現在、女性団員は二人と、役場職員のみで構成されています。今後、女性の細やかな視点を活かした活動を根付かせたいと考えていますが、受け入れ体制や活躍の場の創出が課題です。これは、私たちが持続可能な消防団を目指す上で避けては通れない、次なるステップへの挑戦です。

「守るべきものがあるからこそ、守り方を変えていく」。ひまわりのように地域を明るく照らす存在であり続け、ホルモンうどんを囲むような温かな地域社会の安全を守るため、私たちはこれからも挑戦を続けます。伝統という土台の上に、新しい時代の風を取り入れながら、一人でも多くの仲間と共に歩んでいく。その意志を胸に、佐用町消防団はこれからも町民の皆様の期待に応えるべく、前進します。

##### 強固な連携体制

西脇消防署及び西脇北出張所とは年四回の連携訓練を実施し、災害時の即応体制を磨

いています。訓練後には毎回消防署員と団員による意見交換会を開催しており、形式にとられない率直な対話を通

じて、振り返りや情報交換を行って

また、建物火災や林野火災などの事案発生後には「火災事案検討会」を実施し、成功事例の共有や改善点の検証を重ねることで、次なる事案への確実な即応力へと繋げてい

ます。

新たな研修と今後の展望

消防団が抱える課題は地域住民一人ひとりの課題と捉え、今年度は新たに西脇消防署と合同で一月と二月に「西脇市消防団実務研修」を開催します。本研修では、消防署員による火災性状や戦術の座学に加え、実際の建物火災を想定した連携要領の確認を行



団員家族への広報

ます。消防職員との直接的な対話を通じて「顔の見える関係」を構築し、緊密な連携による専門知識の共有は、活動の効率化だけでなく、団員の士気向上にも寄与すると考えられます。それぞれの苦手分野を補い、これまでにない一体的な活動を行うことで消防団の課題に立ち向かいながら、安全で安心なまちづくりに寄与していく所存です。

## われら若手消防団員

### ～「世代を超えた繋がり」～



丹波市消防団 春日支団 第一分団第二部 団員 竹村 大樹

今年で入団から九年目を迎えました。私が消防団に興味を持ったきっかけは、幼い頃から父が消防団活動に励む姿を身近で見ていることです。地域のために真剣に活動する父の姿を見て、「自分もいつか地域に貢献できる人になりたい」と思うようになりました。入団当初は年上の先輩方ばかりで緊張することもありましたが、皆さんが温かく接してくださり、活動を通して多くのことを学ば

ていただきました。今では後輩もでき、普段は和気あいあいと楽しく活動しています。しかし、火災などの災害時には、一人ひとりが真剣な表情で地域の安全を守るために行動しており、その姿に消防団員としての責任と誇りを感じています。二年前にはポンプ操法大会の選手として三番手を務め、町大会は優勝しました。今年も選手の補佐として訓練に参加しており、人に教えることの難しさや支える立場として改めて学ぶことも多くあります。消防団活動を通じて、世代を超えた仲間とのつながりができたことは私にとって大きな財産です。これからも地域の安全を守る一員として、一人前の団員を目指し精一杯頑張っていきたいと思

出しました。具体的には、出初式の屋内ホール開催への移行や、町操法大会の廃止、そして西播磨地区大会への参加を希望分団による手上げ制へと変更しました。



出初式



水防講習会



消防団新活動服

です。また、組織の多様化も重要な課題です。現在、女性団員は二人と、役場職員のみで構成されています。今後、女性の細やかな視点を活かした活動を根付かせたいと考えていますが、受け入れ体制や活躍の場の創出が課題です。これは、私たちが持続可能な消防団を目指す上で避けては通れない、次なるステップへの挑戦です。

「守るべきものがあるからこそ、守り方を変えていく」。ひまわりのように地域を明るく照らす存在であり続け、ホルモンうどんを囲むような温かな地域社会の安全を守るため、私たちはこれからも挑戦を続けます。伝統という土台の上に、新しい時代の風を取り入れながら、一人でも多くの仲間と共に歩んでいく。その意志を胸に、佐用町消防団はこれからも町民の皆様の期待に応えるべく、前進します。

# わが町の団長さん

## 「島の平穩を願う、 三八年目の『海の男』」

姫路市家島消防団

水田 清久



「自分たちの島は自分たちで守る」という強い気概を持ち、姫路市家島町消防団の団本部及び宮、真浦、坊勢、男鹿の全分団を束ねるのが水田清久団長です。

父の後を継ぎ漁師として海へ出て三八年。消防団員としての歩みも同じく三八年目を迎えました。かつて島に常備消防が無かった頃は、火災が起きれば団員の漁船を出し、重い資機材を積んで現場へ急行しました。筒先やホースを担いで浅瀬を渡り、崖を登るといふ過酷な現場を何度も経験してきたといいます。その厳しさを知るからこそ、団長として掲げる信念は「団員の安全確保」です。迅速な行動はもちろん大切ですが、まずは団員が怪我なく戻ることが最優先だと語ります。現場では全員が常に声を掛け合い、気を抜かず適切な判断を下せる組織づくりを何より大切にされています。

災害現場で「ありがとう」と言われても、結果を思えば手放しには喜べないこともあります。だからこそ、地域の

皆さんが当たり前の毎日を安心して普通に過ごさせている。こここそが、活動の大きな意義となつていきます。

そんな団長の最大の癒やしは、お孫さんや愛犬と過ごすひとときです。時には甲子園でハイボールを片手に野球観戦を楽しみ、一人の「海の男」としてリフレッシュされています。

「地域の皆さんのご理解が団の活力になります」と語る水田団長。海と島を知り尽くした男の背中が、今日も家島諸島の平穩を力強く見守っています。

## 「時には厳しく、 時には優しい 兄貴分」

福岡市消防団

和田 数弘



福岡市は、兵庫県の中播磨地域の中心に位置し、豊かな自然と日本民俗学を確立し、歴史に名を残す柳田国男生誕の地で、歴史と文化が漂う魅力あふれるまちです。近年は「河童のガジロウ」をはじめとするさまざまな妖怪が出没するまちとしても有名で、国内外からの注目を浴びています。

福岡市消防団は、和田団長以下六〇〇名、機能別消防団

員三七名（令和八年三月末現在）が在籍し、地域の安全・安心のため活動しています。

和田団長は、平成二三年に福岡市消防団に入団され、令和三年に分団長となり、令和五年には本団幹部に抜擢されました。以後、副支部長、支部長を歴任し、令和八年に団長に就任しました。持ち前の行動力と冷静な判断力で、火災等の災害現場においては、的確な指揮を執るとともに、率先して活動にあたられています。

和田団長は、三七歳という若さで団長に就任しましたが、若い団員はもちろん、年齢や経験年数が上の団員に対しても時には厳しく指導にあたることがあります。その熱意と行動力、消防への意識の高さは他の団員の良い見本、良い刺激となつていいることは言うまでもありません。

また、厳しさの中にも時折見せる優しさと子どものような笑顔には、なんでも相談しやすい雰囲気を感じさせており、まさしく「兄貴分」といった存在でもあります。

和田団長には、これからも福岡市消防団を背負って立つ者として、従来の慣習にとら

われず、新たな取り組みを展示させるリーダーとしてのさらなる活躍が期待されています。

## 「団結精励」

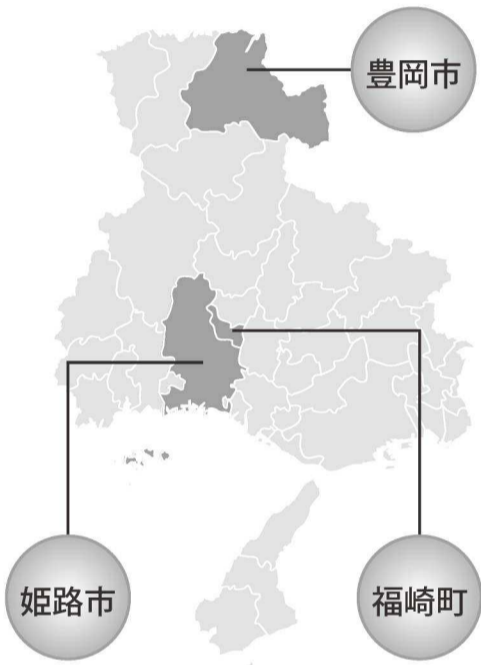
豊岡市豊岡消防団

小崎 哲男



豊岡市は、平成一七年四月一日、兵庫県の北東部に位置する一市五町（豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町）が合併してできたまちです。県下で一番広い面積を有している本市は、合併前の旧市町単位に消防団を設置する多団制を採用しています。

令和八年四月一日に就任された小崎団長は、一四分団四一〇名で構成されている豊岡市豊岡消防団の団長だけではなく、大規模災害等が発生した場合に市内の六消防団を統括指揮する「豊岡市連合消防団長」という重責も担ってお



られます。

小崎団長の団歴は四〇年以上に上り、人生の半分以上を消防団員として活躍されてこられましたので、消防への思いや卓越した知識には、本団に頭が下がります。

団長は、地元に着した消

防団活動を展開されています。

また、公私問わず、団長の周りには常に「笑顔の輪」があらわれており、団員・市民からの信頼が非常に厚いことがうかがわれます。

団長に就任されてから、お酒を飲む機会が増えられたと

## 震災の原体験が導いた 消防団員という選択

神戸市水上消防団港島分団

副分団長 前田 緑



神戸市水上消防団は、ポートアイランド、神戸港一円および中央区湾岸沿いの一部を管轄し、本団のもと四分団定数一二〇名で組織されています。令和八年四月現在、女性消防団員は八名在籍しており、新港分団に二名、港島分団に六名が所属しています。

私は阪神・淡路大震災を経験したことをきっかけに、地域のリーダーとして役に立ちたいとの思いを抱き、大学職員としてポートアイランドで勤務するご縁から、令和三年一二月に神戸市水上消防団へ入団しました。

私が所属する港島分団は、住宅エリアに居住する団員と、キャンパスエリアに在職・在学する団員が協働して活動する全国的にも珍しい分団です。

学生団員が、住宅エリアで日常的に使われている場所の通称が分からず、活動時に困った経験があったため、住宅エリアの団員と共に警防調査を実施し、結果をマップにまとめることで、居住者が慣れ親しんだ通称を用

いた避難誘導を可能とするような工夫を行っており、団員間の円滑な連携につなげています。

令和四年に妊娠が分かった際、退団を考え、分団長に相談しましたが、「休職制度がある。無事出産した後、また一緒に頑張ろう」と声をかけていただき、育児休業を経て活動を続けることができました。

これからも神戸市水上消防団の一員として、安全・安心なまちづくりに貢献してまいります。

# がんばってます、 女性消防団員



警防調査の結果をマップに反映している様子